



もう まん たい 右問題通信

香港日本人学校大埔校

2021年3月

田村卓真

Hong Kong
vector eps10



大家好（タイカーホウ）！！

みなさん、こんにちは（大家好）。令和2年度香港日本人学校大埔校に派遣の鳥取市立美保小学校所属の田村卓真と申します。現在の香港と在外教育施設の様子を現地からお伝えします。よろしくお祈りします。通信名の右問題（もうまんたい）とは、問題ない、大丈夫という意味です。香港らしい素敵な言葉だと思い、この通信名に決めました。ちなみに右問題の「右」は、日本でも使う「有」の2本の線を消した字になります。

～香港について～

香港の正式名称を「中華人民共和国香港特別行政区」といい、1997年7月に香港の主権はイギリスから中国に返還されましたが、50年間は香港が資本主義制度を存続することを保障しており「一国二制度」を導入しています。

香港といえば美味しい食べ物や100万ドルの夜景など魅力的で素晴らしい文化や場所が沢山あります。しかし、それ以上に魅力的なのが香港の方の人柄だと思っています。香港の方は、お年寄りや子どもに対して、とても親切です。私には、2人の子どもがいますが、日本よりもバスや電車の中では席を譲ってくれたり、困っていると声を掛けてくれたりする人がとても多い気がします。また、日本のお店や食品も多くあり、日本に対してとても好意的であると感じます。



～現地のコロナウイルス対策～

香港のコロナウイルス対策は、日本よりとても厳しいです。一例をご紹介します。

- ① マスクの着用義務（罰金5000HK\$→日本円で約70000円）
- ② 入境者は、21日間政府指定ホテルでの隔離（検疫期間中は、電子リストバンドを着用）
- ③ 公共の場所に集まるのは2人まで。

など他にも多くの決まりがあり、違反した場合は罰金が科されます。



飲食店に入るときには、アプリを登録するか電話番号を紙に書かないと入店できないこともあります。

～香港で見つけた鳥取について～

香港は鳥取と飛行機で繋がっており、令和元年度の鳥取県に宿泊した外国人では1位となりました。このように観光面でも鳥取県と繋がりのある香港ですが、香港の町を歩いていても鳥取との繋がりを感ずることがあります。

それは、食べ物です。この写真は、香港にあるドン・キホーテの写真です。鳥取の名産の二十世紀梨や大栄スイカがあり、初めて見たときは驚きました。また、平井知事も訪れるなど改めて、香港と鳥取の繋がりは深いのだなと思いました。



～香港日本人学校小学部大埔校について～



香港日本人学校は、香港島側に香港校小学部・中学部があり、九龍半島側に大埔校小学部があります。私が勤務しているのは、香港日本人学校大埔校です。香港の中心街から北へ約20kmの大埔自然保護区に面し、緑豊かで穏やかな海を窓から眺める高台にあります。海や山があり、自然がいっぱいな所は鳥取に似ているかもしれません。写真は、学校の屋上から撮ったものです。

学習については、英語の授業が1年生から6年生まで、毎日あります。ネイティブの先生が授業を行い、子ども達は英語力の向上に努めています。また、『図画工作』や毎週1回行われる『水泳』の授業も英語で行われています。子ども達の英語力の高さに日々驚いています！私も子ども達に負けないようにボディランゲージを駆使して、過ごしています。※今年度は、コロナウイルス対策のため水泳の授業は実施できませんでした。

(写真の出典*香港日本人学校大埔校HPより)



～コロナウイルスに負けない～

香港政府の指示により、今年度休校が3度ありました。また、開校しても子ども同士が対面することの禁止、午前中授業など様々な制約があります。しかし、このような状況でも子ども達がzoomを使ってオンライン授業を行ったり、開校すれば制約がある中でも一生懸命学習をしたりしています。改めて、学校に通える、みんなで学習できるという当たり前の大切さに気付くことのできた1年でした。

そして、この環境の中でも校長先生、教頭先生、同僚の先生方が子ども達のために、できることを試行錯誤されながら取り組む姿を見て、私も負けないように頑張らなければと日々思っています。できないから、仕方が無いではなく、プラス思考で子ども達のためにできることはないか考え、実践していきたいと思えます。